

2025年 2月
第6回ポスドク報告書
久門 智祐

2021年の夏にUniversity of Pennsylvaniaで生物学のPhDを取得し、2021年の冬からMITのWhitehead Institute, Howard Hughes Medical Instituteでポスドクとして勤務する久門智祐です。ポスドク3年目の夏からポスドク3年目の冬に至るまでの経過を報告します。特に年末から今に至るまでは、論文投稿とグラント申請をしていました。

ポスドクでのメインの研究プロジェクトが論文としてまとめ、bioRxivに投稿しました。

<https://www.biorxiv.org/content/10.1101/2025.01.10.632443v1>

自分の感覚ではPhD時代のメイン研究プロジェクトの論文よりも実験結果が詰まっており、満足のいく内容のものですが、どの雑誌に載せることができるか、現在奮闘中です…

論文準備に区切りがついた頃、K99/R00グラントの申請にも再挑戦しました。アメリカの生物・医学分野のグラント（研究費）はおもに公的機関、大学基金、民間財団から賄われています。公的機関からの研究費は国立衛生研究所NIHを筆頭に、国立科学財団NSF、航空宇宙局NASA、国防高等研究計画局DARPAなどから出ています。大学基金は寄付金の運用のほか、公的機関からの研究費の間接費から出ています。そして民間の財団にはゲイツ財団に次ぐ全米二位の財産総額をもつハワード・ヒューズ医学研究所のほか様々な財団が研究費を出しています。そのなかで、独立を目指す際に取りたいとされるのがNIHのK99/R00グラントです。NIHのグラントにはKシリーズと呼ばれる若手育成トレーニンググラント、Rシリーズと呼ばれるリサーチグラント（日本の科研費に相当しR01などが有名）が存在し、K99/R00はその中間で、独立直前の2年を支援するK99フェーズと独立直後の3年を支援するR00フェーズがあります。特にR00フェーズは年間\$250kの支援が得られるため、持っている就活に非常に有利と言われる所以です。このK99/R00グラントはPhD取得日から4年以内しか応募できず、毎年2月、6月、10月に締切があります。様々な書類を用意する必要があるのですが、中でも重要とされるのがTraining PlanとResearch Plan（を基にしたSpecific Aimsページ）の2点です。独立直前の2年間にどのようなトレーニングをするか、独立直前と独立直後にどのような研究プロジェクトをするか、簡潔にまとめた書類です。前回（およそ1年半前の2023年10月）応募した際は、ポスドクを開始してから2年しか経っておらず、メインプロジェクトの論文も出ていないため、独立に向けたトレーニングプランも、独立に向けた研究プランも、あまり実のあることは書けませんでした。さらに前回は就活のための書類も同時並行で作成していたため、K99/R00の書類も就活の書類も今見返すとかなり酷い内容のものしか書いていませんでした。一方今回はメインプロジェクトの論文もまとめ、前回の失敗も踏まえつつ、様々な人の力を借りて、腰を据えてトレーニングプランと研究プランを書けたので、満足のいく内容のものことができました。これでダメだったら仕方がないです。（とはいえ本当に色々な人が、かなりの労力を費やして手伝ってくれたので、是非とも通って欲しいのですが…）

再来月の4月からシアトルにあるUniversity of WashingtonのDepartment of Genome Sciencesでの研究が始まります。そこで私がAssistant Professorとして働けるかどうかは、投稿中の論文の行方、次の研究の成果、自分でグラントがとれるか、他の大学からオファーが出るか、NIHの「効率化」に伴う採用停止や予算カットが無いかなど、様々なハードルがありますが、頑張っていきたいと思います。ポスドク報告書は今回が最終回となります。2014年の秋の採択以降10年以上(!!)にわたり、船井財団には様々な支援をいただきました。授業料や生活費、研究奨励費やポスドク支援費など、金銭の支援のみなら

ず、様々な人との交流や、色々な情報の共有など、船井財団からの支援なくしてPhDでの研究、ポスドクでの研究をすることは出来ませんでした。これまでの支援に感謝をするとともに、微力ながら財団へのお手伝いができればと考えています。